

**第8期 大津市
高齢者福祉計画・介護保険事業計画
(おおつゴールドプラン2021)**

**令和4年度事業の実績報告
及び
令和5年度事業（今後の方向性）について**

高齢者人口推計 及び 要介護認定率等の推移

高齢者人口等の推計と実績



Lake Biwa

区分	令和3年度推計	令和3年度実績	令和4年推計	令和4年度実績	令和5年推計
総人口	343,109	343,817	342,218	343,839	341,331
40歳未満	132,200	132,095	130,375	131,022	128,552
40~64歳	117,887	118,148	117,726	118,495	117,568
65歳以上	93,022	93,574	94,117	94,322	95,211
65~69歳	21,180	20,188	20,879	19,778	20,580
70~74歳	24,164	26,065	23,379	24,490	22,594
75~79歳	19,051	17,912	19,857	19,581	20,664
80歳以上	28,627	29,409	30,002	30,473	31,373
65歳以上：%	27.1%	27.2%	27.5%	27.4%	27.9%
75歳以上：%	13.9%	13.8%	14.6%	14.6%	15.2%
80歳以上：%	8.3%	8.6%	8.8%	8.9%	9.2%

※ 推計値は第8期ゴールドプラン策定時（R2）の見込。実績値は3月末現在

■ 人口は令和3年度実績では減少に転じたが、令和4年度実績では再び増加となった。
（令和2年度実績 343,835人） 高齢化率はほぼ推計どおり。

要支援・要介護認定者数の推計と実績



Lake Biwa

区分	令和3年度推計	令和3年度実績	令和4年度推計	令和4年度実績	令和5年度推計
要支援 1	2,423	2,533	2,510	2,678	2,599
要支援 2	3,127	3,139	3,237	3,153	3,349
要介護 1	2,720	2,707	2,826	2,770	2,933
要介護 2	3,712	3,559	3,857	3,717	4,001
要介護 3	2,757	2,675	2,866	2,774	2,977
要介護 4	2,072	2,027	2,155	2,075	2,237
要介護 5	1,440	1,347	1,496	1,379	1,550
合計	18,251	17,987	18,947	18,546	19,646
第1号認定率	19.3%	19.0%	19.8%	19.7%	20.3%
(参考) 事業対象者認定数	—	709	—	738	—

※ 推計値は各年10月1日現在、実績値は3月末現在

- 令和4年度要支援・要介護認定者数は18,546人で、推計と比較しやや下回っている。
- 総合事業対象者の令和4年度実績は 738人

基本目標ごとの 主な数値目標と実績

基本目標 1 医療福祉サービスが切れ目なく利用できるまち (在宅医療・介護連携の推進)



Lake Biwa

施策の方向：在宅療養を支援する医療福祉資源の充実

施策：在宅医療に関わる医療機関等の充実

事業名	事業単位	令和5年度 目標	令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 実績
機能強化型訪問看護ステーション	事業所数	3	1	3	3
訪問診療実施医療機関	医療機関数	135	88	85	84

<令和4年度評価>

■ 訪問看護体制強化事業補助金は令和4年9月で終了。機能強化型訪問看護ステーション（大型化）により、訪問看護が安定的に供給できる体制整備を進めることができた。また、訪問診療実施医療機関を増やすために、令和3年度から北部及び南部エリアで整備した病院によるバックアップ体制を中部エリアに新たに整備し、市内3病院による訪問診療バックアップ体制を構築することができた。

<令和5年度事業・今後の方向性>

■ 超高齢社会の進展に伴い、在宅医療・看取りへの対応のため、本市独自の訪問看護体制拡充補助事業を創設し、機能強化型訪問看護ステーション（大型化）の拡充を図り、訪問看護サービスを安定して供給できる体制整備を進めていく。また、訪問診療を実施する医療機関をバックアップする3つの病院及び医師会、訪問看護ステーションを連携を図り、在宅医療提供機能の維持・向上を目指す。

基本目標 1 医療福祉サービスが切れ目なく利用できるまち (在宅医療・介護連携の推進)



Lake Biwa

施策の方向：入院から在宅療養への円滑な移行の促進

施策：入退院支援ルールの運用促進

事業名	事業単位	令和5年度 目標	令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 実績
入院時情報共有 (ケアマネジャー⇒病院)	割合 (%)	100	96.4	96.3	96.8
退院時情報共有 (病院⇒ケアマネジャー)	割合 (%)	100	92.3	96.6	96.0

<令和4年度評価>

■ 医療との連携に関する居宅介護支援事業所への調査の結果、入院時情報提供率、退院時情報提供率ともに96%以上と高い水準で維持している。また、「入退院支援に関する研修会」を開催し、病院関係者とケアマネジャーがお互いの支援に必要な情報をグループワークを通して、共有することができた。

<令和5年度事業・今後の方向性>

■ 病院関係者とケアマネジャーの入退院支援に関する情報交換会を開催し、入退院支援ルールの運用の促進と必要な情報の共有を図り、切れ目ない支援に繋げていく。

基本目標 1 医療福祉サービスが切れ目なく利用できるまち (在宅医療・介護連携の推進)



施策の方向：入院から在宅療養への円滑な移行の促進

施策：拠点訪問看護ステーションにおける在宅移行時の相談支援

事業名	事業単位	令和5年度 目標	令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 実績
拠点訪問看護ステーションでの相談	相談件数 (延べ)	200	206	258	175

<令和4年度評価>

■ 令和3年度は新型コロナウイルス感染症の対応等の相談が多かったため、令和4年度は対前年度比で相談件数は減少している。令和4年度は困難事例の連携などの高度な相談が増え、カンファレンスへの参加や同伴訪問で相談支援している。

<令和5年度事業・今後の方向性>

■ 様々な機会を活用して、医療・介護事業所へ周知啓発を引き続き行っていく。また、拠点訪問看護ステーションによる相談支援に関する課題を共有し、必要な情報提供を行うなど、密な連携を図っていく。

基本目標 1 医療福祉サービスが切れ目なく利用できるまち (在宅医療・介護連携の推進)



Lake Biwa

施策の方向：医療福祉関係者の連携強化

施策：多職種連携協働事業の推進

事業名	事業単位	平成5年度 目標	平成2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 実績
多職種合同研修会	開催回数	30	14	9	17
	参加人数	2,200	778	410	694

<令和4年度評価>

■ オンライン形式の研修会にグループワークを取り入れ、情報交換や情報共有を図ることができた。オンライン形式は、参加しやすいが些細な相談などはしにくい。このため、より詳細な意見交換を行いやすい、対面形式での研修会を望む意見もあった。

<令和5年度事業・今後の方向性>

■ 各ブロックにおいて、研修会の内容や方法を工夫しながら、医療福祉関係者間での連携強化に繋がる取組を進めていく。

基本目標 1 医療福祉サービスが切れ目なく利用できるまち (在宅医療・介護連携の推進)



Lake Biwa

施策の方向：在宅療養・在宅看取りについての普及・啓発

施策：在宅療養の姿を自らが考え意思表示が行えるための支援

事業名	事業単位	令和5年度 目標	令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 実績
在宅療養・看取りの市民啓発講座「おおつ在宅療養応援講座」	開催回数	20	1 広報誌による啓発 5	1 広報誌による啓発 5	10 ラジオによる啓発 4
	参加人数	1,200	136	41	267

<令和4年度評価>

■各ブロックで小規模単位での講座開催やラジオによる啓発など、工夫しながら、開催できた。実施後のアンケートでも「自分の事として考えることができた」「家族と話し合おうと思った」などの意見を聞くことができた。また、市民に対して実施した在宅医療に関する意識調査でも、在宅療養・看取りに関する情報提供を希望される意見が多くあった。

<令和5年度事業・今後の方向性>

■引き続き、地域の関係団体等と連携しながら、開催方法や媒体を工夫しながら、普及・啓発に努めていく。

基本目標 1 医療福祉サービスが切れ目なく利用できるまち (在宅医療・介護連携の推進)



施策の方向：介護サービス事業者・ケアマネジャーへの支援

施策：介護サービス事業所の課題聴取と解決策の検討

事業名	事業単位	令和5年度 目標	令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 実績
介護相談員派遣事業	相談員数	9	7	7	5
	訪問施設数	18	0	0	0

<令和4年度評価>

■介護サービス事業所・施設等における新型コロナウイルス感染の発生状況を踏まえ、令和3年度に続き、令和4年度においても訪問事業を休止した。

<令和5年度事業・今後の方向性>

■新型コロナウイルス感染症の発生状況を見据えながら、訪問事業の再開や相談員の募集等を行い事業に取り組んでいく。

基本目標 1 医療福祉サービスが切れ目なく利用できるまち (在宅医療・介護連携の推進)



Lake Biwa

施策の方向：地域包括ケアシステムを支える介護人材確保及び事業所における 業務効率化の取組の推進

施策：介護人材の確保、事業所における業務効率化の取組の推進

<令和4年度実績及び評価>

- 第8期大津市高齢者福祉計画・介護保険事業計画に位置づけて、令和3年度から市独自の事業に取組み、令和4年度はさらに新たな事業を実施するなど、拡大して推進してきた。
- ・ (令和3年度から継続) おおつ介護事業所オンラインセミナー 6回開催 アクセス合計231件
- ・ (令和3年度から継続) おおつ介護に関する入門的研修 6回開催 参加者合計114名
- ・ (令和4年度新規事業) 業務改善等コーディネーター派遣事業 6事業所を選定
- ・ (令和4年度新規事業) おおつ介護人材確保・定着総合補助金 合計167件 14,864千円
- ・ (令和4年度新規事業) 学校向け出前講座 モデル校2校(仰木中学校、青山中学校)で実施
- ・ 大津市介護人材確保連携会議 令和5年3月9日開催

<令和5年度事業・今後の方向性>

- 令和5年度の組織改編により、長寿施設課内に専属部署として、「介護人材確保対策室」を設置した。また、新たに介護の仕事の魅力発信やPRにつながる「おおつ介護フェスタ」を関係機関の協力により開催予定であるほか、各事業で実施方針の見直しを行い、拡充して多様な施策を展開していく。

基本目標 2 認知症になっても地域の中で安心して生活できるまち (認知症施策の推進と高齢者の権利擁護)



施策の方向：早期診断・早期対応の充実

施策：「認知症初期集中支援チーム」による相談・支援体制の推進

事業名	事業単位	令和5年度 目標	令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 実績
認知症初期集中支援事業	支援後に医療につながっている割合	75%	48.6%	63.1%	48.3%
	支援後に介護につながっている割合	75%	50%	75.0%	69.0%

<令和4年度評価>

■ チーム会議を活用し、優先度の高いケースから対象者を決定した。チーム員医師とは、新型コロナウイルス感染症のため、連携しにくい時期もあったが、電話やオンライン会議等で連携を図ることができた。支援困難ケースについては、チーム員の頻回な訪問や柔軟な対応を行った。

<令和5年度事業・今後の方向性>

■ 認知症初期集中支援チームが地域の認知症ケアパスの重要な役割が担えるよう引き続き支援を継続する。また、出来る限り早い段階から訪問支援対象者となる見込みの者を認知症初期集中支援チームに繋げるために、当該支援チームがあることを普及啓発していく。

基本目標 2 認知症になっても地域の中で安心して生活できるまち (認知症施策の推進と高齢者の権利擁護)



Lake Biwa

施策の方向：早期診断・早期対応の充実

施策：医療機関や医師会との連携体制及び相談業務の充実

事業名	事業単位	令和5年度 目標	令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 実績
認知症相談窓口協力事業所登録事業	登録事業所数	120	112	114	115

<令和4年度評価>

- 医師会の協力のもと、誰でも気軽に相談できる場所として「もの忘れ相談」をオンラインにて実施した。また、認知症に関わる専門職等が対応する「認知症相談窓口協力事業所」については、登録事業所数の増加は伸び悩んだ。

<令和5年度事業・今後の方向性>

- 今後も「もの忘れ相談」を開催し、かかりつけ医やあんしん長寿相談所等との連携を図っていく。
認知症相談窓口協力事業所登録事業については、令和5年度の目標が達成できるよう事業所に周知していく。

基本目標 2 認知症になっても地域の中で安心して生活できるまち (認知症施策の推進と高齢者の権利擁護)



施策の方向：認知症を正しく理解し、地域で支える体制の構築

施策：認知症サポーター及び認知症キャラバン・メイトの養成と地域活動の推進

事業名	事業単位	令和5年度 目標	令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 実績
企業職域型認知症サポーターの養成	人数	8,400	3,967	4,198	4,552

<令和4年度評価>

■新型コロナウイルス感染症対策のため、昨年度から引き続きオンライン講座を実施したり、企業向け講座の案内を行うなど企業職域型認知症サポーターの養成に努めた。また、認知症キャラバン・メイトや認知症サポーターが任意性をもったボランティアとして自発的に活動できるよう、定例会を開催し、情報発信や情報共有を行った。

<令和5年度事業・今後の方向性>

■認知症サポーター養成講座を受けた企業・職域が、市民からも見えるよう、市のホームページ上にオレンジ協力隊として掲載し、店舗・事業所で認知症の普及・啓発に協力してもらえるよう、認知症事業のチラシやポスターを掲示してもらうことを依頼していく。

基本目標 2 認知症になっても地域の中で安心して生活できるまち (認知症施策の推進と高齢者の権利擁護)



Lake Biwa

施策の方向：認知症を正しく理解し、地域で支える体制の構築

施策：認知症の人に優しい地域づくり・地域での見守り体制の構築

事業名	事業単位	令和5年度 目標	令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 実績
行方不明高齢者早期発見ダイヤル登録事業	登録者数	400	323	334	329
大津市行方不明GPS位置情報探知システム利用支援事業	貸出累計台数	60	37	55	65

<令和4年度評価>

■ 令和3年度から開始した大津市認知症高齢者等個人賠償責任保険事業に関しては令和4年度は40名の新規登録があった。行方不明高齢者早期発見ダイヤル登録事業については、88名の新規登録があったが、死亡等による削除者も多く、結果として登録者は微減となった。大津市行方不明GPS位置情報探知システム利用支援事業については、貸出累計台数が65台と令和5年度の目標を超えた。

<令和5年度事業・今後の方向性>

■ 各事業とも引き続き事業を実施するとともに、HPや各あんしん長寿相談所等にチラシを設置し、情報発信を行っていく。

基本目標 2 認知症になっても地域の中で安心して生活できるまち (認知症施策の推進と高齢者の権利擁護)



Lake Biwa

施策の方向：認知症を正しく理解し、地域で支える体制の構築

施策：認知症の人の家族介護者への支援

事業名	事業単位	令和5年度 目標	令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 実績
認知症カフェ	実施している日常生活圏域の割合	80.0%	66.6%	46.6%	46.6%

<令和4年度評価>

■実施している日常生活圏域の割合については、令和3年度と同様の割合となった。また、新型コロナウイルス感染症が増加している時期には開催を中止する事業所があった。

<令和5年度事業・今後の方向性>

■今後も、誰でも気軽に参加できる憩いの場所として、また、認知症の情報発信や、認知症の相談が行える場として認知症カフェを開催し、HPや各あんしん長寿相談所等にチラシを設置し、情報発信を行っていく。

基本目標3 高齢者等が健やかに生活し、社会参加ができるまち (生活支援・介護予防サービスの基盤整備の推進)



Lake Biwa

施策の方向：高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施

施策：通いの場等への積極的な関与等（ポピュレーションアプローチ）

事業名	事業単位	令和5年度 目標	令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 実績
健康いきいき講座	延べ参加者数	1,800	257	392	436

<令和4年度評価>

- 新型コロナウイルス感染症流行に伴い、住民主体の通いの場の開催が減少しており、参加者数が伸び悩んでいる。令和3年度から参加者にフレイルチェックを実施し、本人の状態に応じて健康相談を実施している。

<令和5年度事業・今後の方向性>

- 引き続き、通いの場等において健康教育を実施し、広く市民に介護予防の知識の周知を図っていく。また、令和4年度から、高齢者自身が主体的に介護予防に取り組むことを目的として、商業施設で介護予防教室を開催している。その他いろいろな事業の中で介護予防の普及啓発を行う。

基本目標3 高齢者等が健やかに生活し、社会参加ができるまち (生活支援・介護予防サービスの基盤整備の推進)



Lake Biwa

施策の方向：一般介護予防事業の推進

施策：介護予防普及啓発事業

事業名	事業単位	令和5年度 目標	令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 実績
介護予防フィットネス講座	延べ参加者数	500	299	569	558
運動実践教室	延べ参加者数	1,200	489	666	680

<令和4年度評価>

■運動実践教室においては、地域の介護予防団体と連携し、介護予防の講座等を通じて介護予防に関する正しい知識の啓発に努めた。また、介護予防フィットネス講座では介護予防のための運動やロコモ予防のための講話などを組み合わせた教室を開催し、すべての会場において定員を上回る申し込みがあった。

<令和5年度事業・今後の方向性>

■今後も介護予防に関する普及啓発や介護予防に資する体操などを通じて、介護予防に関する正しい知識の普及・啓発を図るとともに、介護予防に取り組む市民が増えるよう努めていく。

基本目標3 高齢者等が健やかに生活し、社会参加ができるまち (生活支援・介護予防サービスの基盤整備の推進)



施策の方向：一般介護予防事業の推進

施策：地域介護予防活動支援事業

事業名	事業単位	令和5年度 目標	令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 実績
介護予防活動支援事業補助	支援団体数	50	34	42	53 (予定)

<令和4年度評価>

■ 新型コロナウイルス感染症の影響に伴う外出自粛等を考慮し、令和2年度から介護予防活動の実施回数についての基準を緩和していることもあり、申請団体数は伸びてきている。

<令和5年度事業・今後の方向性>

■ 高齢者が、住み慣れた地域で「居場所」「仲間」「役割」、さらには日常生活を送る上での「生きがい」を創出するための活動を支援することにより、介護予防を推進していく。

基本目標3 高齢者等が健やかに生活し、社会参加ができるまち (生活支援・介護予防サービスの基盤整備の推進)



施策の方向：一般介護予防事業の推進

施策：地域リハビリテーション活動支援事業

事業名	事業単位	令和5年度 目標	令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 実績
介護予防サポーター養成講座	累計養成人数	133	77	105	132

<令和4年度評価>

■ 5月22日に介護予防サポーター養成講座を開催し、10団体から新たに27名が介護予防サポーターとなった。これにより、サポーター累計人数は48団体で132名となっている。フォローアップとして実施している応援講座に関しては、令和4年度は、29回開催（延べ参加者数383人）することができた。

<令和5年度事業・今後の方向性>

■ 施策としては、年1回の養成講座と1団体につき計3回のフォローアップの応援講座を実施しているが、3回目以降のサポーターや団体へのフォロー体制が整っていないことは今後の課題である。また、サポーターに介護予防に関する知識を周りの人に広めてもらうための仕組みについても検討していく必要がある。

基本目標3 高齢者等が健やかに生活し、社会参加ができるまち (生活支援・介護予防サービスの基盤整備の推進)



Lake Biwa

施策の方向：生活支援サービスの充実

施策：生活支援・介護予防サービス情報の公表

事業名	事業単位	令和5年度 目標	令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 実績
生活支援サービスに関する情報公開	件数	400	307	302	297

施策：その他の在宅サービス

事業名	事業単位	令和5年度 目標	令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 実績
緊急通報装置	利用者数	694	599	559	520
小規模住宅改造経費助成事業	利用者数	170	164	138	172
転倒予防のための屋内改修サービス事業	利用者数	9	10	5	7
紙おむつ給付事業	利用者数	1,621	1,583	1,458	1,542
寝具丸洗いサービス事業	利用者数	272	252	257	267
配食サービス事業	利用者数	395	397	428	502

基本目標3 高齢者等が健やかに生活し、社会参加ができるまち (生活支援・介護予防サービスの基盤整備の推進)



Lake Biwa

<令和4年度評価>

■ 介護保険サービスの対象とならない高齢者や単身高齢者世帯、高齢者のみ世帯へ在宅生活を支援するための事業を実施した。新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛もあって、配食サービスの利用者数が年々増加している。

<令和5年度事業・今後の方向性>

■ 高齢者の在宅生活を支援するため、今後も広く市民へ事業の周知を図っていくとともに、必要な人に必要なサービスが行き届くよう努めていく。

基本目標3 高齢者等が健やかに生活し、社会参加ができるまち (生活支援・介護予防サービスの基盤整備の推進)



Lake Biwa

施策の方向：その他の日常生活を送るうえでの支援

施策：高齢者等地域見守りネットワーク事業

事業名	事業単位	令和5年度 目標	令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 実績
高齢者等地域見守りネットワーク事業	協定事業所数	20	17	19	20

<令和4年度評価>

- 令和4年度に、新たに1事業者と協定を締結することができ、令和5年度の目標をすでに達成することができた。
また、令和4年度においては、情報交換会をオンラインと会場のハイブリッドで開催し、事業者同士の意見交換や現状の把握等に努めた。

<令和5年度事業・今後の方向性>

- 新型コロナウイルスの影響により、多くの高齢者の方が外出を控えていたため、フレイルや認知症等が進んでいる可能性が高く、行政や関係機関、民間事業者などが協力し、地域社会全体で高齢者等を見守るネットワークの構築は非常に重要であり、今後もさらに協定先の拡大に努め、異変のある高齢者の早期発見と必要な支援の提供につなげていく。

基本目標 4 安心して暮らし続けることができる住まいが整っているまち (高齢者の居住安定に関わる施策との連携)



Lake Biwa

施策：高齢者の住まいの安定的な確保

事業名	事業単位	令和5年度 目標	令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 実績
特定目的住宅の設置	年間設置戸数	15	15	15	15

施策：高齢者の移動手段の確保

事業名	事業単位	令和5年度 目標	令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 実績
ノンステップバスの導入	補助台数	2	0	1	1

<令和4年度評価>

- 特定目的住宅について、計画どおり、15戸設置を行った。
- 令和4年度のノンステップ車両の新規購入は1台となっている。

<令和5年度事業・今後の方向性>

- 特定目的住宅について、令和4年度についても、計画どおり、15戸設置を予定している。
- 令和5年度は、交通事業者においてノンステップバスの新規導入を2台予定されている。
- 令和5年度より、デマンド型乗合タクシーの運行内容を改善し、利便性と効率性の向上を図る。

基本目標 4 安心して暮らし続けることができる住まいが整っているまち (高齢者の居住安定に関わる施策との連携)



Lake Biwa

施策：防災事業

事業名	事業単位	令和5年度 目標	令和2年度 実績	令和3年度 実績	令和4年度 実績
防災メール登録者数	登録者数	18,000	13,248	14,133	12,012
防災ナビ登録者数	登録者数	18,000	13,562	17,020	19,009

<令和4年度評価>

- 防災ナビについては、登録者数が令和5年度目標を超えた。
- 防災メールについては、登録したアドレスを変更される方が一定数おられ、登録者実績が伸び悩んでいる。

<令和5年度事業・今後の方向性>

- 個別避難計画の作成を推進する際や、地域で出前講座をする際に、要配慮者及び要配慮者関連施設、地域に対して、防災メール及び防災ナビを活用した情報収集を行うよう周知する。

**基本目標 5 地域の特性を踏まえた地域包括ケアシステムを
確立するまち （7つのブロック別活動目標）**



※ 資料別添

基本目標 6 地域の中で安心していきいき暮らせるまち (あんしん長寿相談所の機能強化)



施策の方向：あんしん長寿相談所の機能強化方針

施策：基幹型と委託による圏域型のあんしん長寿相談所の体制の強化

令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度予定
-	2	2

<令和4年度評価>

- 委託による圏域型あんしん長寿相談所2か所（令和4年10月3日に小松あんしん長寿相談所、令和5年3月1日に比叡第二あんしん長寿相談所）を開設した。
- 機能強化を目指し、今後のあんしん長寿相談所のあり方についての検討を開始した。

<令和5年度事業・今後の方向性>

- 委託による圏域型あんしん長寿相談所2か所（南第二あんしん長寿相談所及び瀬田第三あんしん長寿相談所）を開設し、15か所の日常生活圏域すべてにあんしん長寿相談所を設置する。
- 機能強化を目指し、今後の基幹型及び委託による圏域型あんしん長寿相談所のあり方について検討し、方針を決定する。

基本目標 7 必要な介護保険サービスを利用できるまち (介護保険サービスの充実)



施策の方向：介護保険サービスの整備方針

施策：地域密着型サービスの整備目標

サービス種別	整備目標	令和3年度実績	令和4年度実績
認知症対応型通所介護（介護予防含む）	12名／1か所	応募なし	応募なし
共用型認知症対応型通所介護（圏域指定なし）	6名／1か所	応募なし	応募なし
小規模多機能型居宅介護（介護予防含む）	29名／1か所	29名／1か所	—
認知症対応型共同生活介護（介護予防含む）	R3：54名 R4：36名	45名	36名
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	R3：58名／2か所 R4：29名／1か所	応募なし	応募なし
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	2か所	応募なし	応募なし
看護小規模多機能型居宅介護	58名／2か所	29名／1か所	29名／1か所

基本目標 7 必要な介護保険サービスを利用できるまち (介護保険サービスの充実)



施策の方向：介護保険サービスの整備方針

施策：入所・居住系施設サービスの整備目標

サービス種別	整備目標	選定状況
介護老人福祉施設（新規）	180人分	150人分（3箇所）

<令和4年度評価>

■小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護は、整備目標どおりの事業採択となり、認知症対応型共同生活介護は1ユニット（9名）を残すのみとなった。応募がなく整備目標に到達していないサービスもある。

<令和5年度事業・今後の方向性>

■第8期計画の整備目標に達していないサービスは、引き続き令和5年度において事業者の公募を実施する。

基本目標 7 必要な介護保険サービスを利用できるまち (介護保険サービスの充実)



施策の方向：介護給付等適正化への取り組みと目標

施策：介護給付等適正化の取り組み

取り組み方針	実施目標	令和3年度 目標	令和3年度 実績	令和4年度 目標	令和4年度 実績
要介護認定の適正化	調査票の点検	100%	100%	100%	100%
ケアプランの点検	ケアプラン点検	100件	101件	100件	104件
住宅改修等の点検	現地確認等実態調査の実施	45件	15件	45件	45件
縦覧点検・医療情報との突合	国保連への委託、データを活用した突合	100%	100%	100%	100%
介護給付費通知	給付費通知同封文書の検討	1回	1回	1回	1回

<令和4年度評価>

■ 各実施目標を達成することができた。住宅改修等の現地確認実態調査については、新型コロナウイルス感染症対策として、屋外の改修状況の確認とした。

<令和5年度事業・今後の方向性>

■ 本事業は利用者等への介護給付の関心や理解を促すものであり、年度目標を達成できるよう努めていくとともに、特に住宅改修等の現地確認実態調査については、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し屋内状況も実施していく。

7つのブロック別活動目標

1. 志賀ブロック（担当：和邇あんしん長寿相談所、小松あんしん長寿相談所）

取り組み項目	目標（評価指標）	令和4年度の実績	令和5年度の実績予定
地域課題から推進すべきこと	乗り合いタクシーの啓発を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・委託のサービス担当者会議で必要な方には、乗り合いタクシーやコミュニティバスの紹介を行った。 ・いきいき健康祭で交通政策課と共に乗り合いタクシーの啓発を行った。 ・2/17の地域ケア会議の中で乗り合いタクシーやコミュニティバスについて意見交換を行った。来年度、エリア会議でさらに検討していく予定。 ・和邇、小松包括がかかわっているケースへのアンケートは来年度実施予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要なケースには、乗り合いタクシーの情報提供を続ける。 ・和邇小松包括がかかわっているケースや相談に来られるケース等に、交通問題のアンケートを実施する。その中で、乗り合いタクシーの使いやすさ、使いにくさについても確認し、乗り合いタクシーも含めた交通問題についてエリア会議で検討する。
	一般商業施設からの宅配サービスや移動販売についての情報提供を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・必要なケースには個別に平和堂など情報提供をしている。 ・気になるケースについて、平和堂サポートの担当者との意見交換を行った。 	一般商業施設からの宅配サービスや移動販売についての情報を把握し、必要なケースについては、情報提供を続ける。
	他器官や多職種との連携強化（8050問題やペット問題等）を行う。	6/13の地域ケア会議の中で、ペット問題について取り組んだ。LOVE & PEACE Prayや民生委員、以前ペット問題に関わりのあったケアマネジャー等が集まり、検討した。	ペットの預かり先の確保については、引き続き他機関、多職種で現状を共有して、必要な情報を提供する。
在宅医療・介護連携	多職種連携を深める場としてOKミーティング（年6回）やいきいき健康祭（年1回）の実施する。	OKミーティングを5/26、7/28、9/22、11/24、1/26、3/23に実施。 健康いきいき祭りを11/12に実施。	<ul style="list-style-type: none"> ・OKミーティングを年6回実施する。 ・健康いきいき祭りを10/28に実施する。 ・多職種メンバーが健康ブースを担当する。
	市民向け在宅療養講座を実施する。	12/10に実施予定であったが、コロナ禍のため、実施できなかった。	まだ実施できていない小松学区で、市民向け在宅療養講座を実施する。
	居宅事業所連絡会（年3回）、ヘルパー事業所連絡会、ショート・デイ連絡協議会、リーダー会（年1回～2回）を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・居宅事業所連絡会7/15、11/18、2/17実施 ・ヘルパー事業所連絡会10/20、2/16実施 ・ショート・デイ連絡会、リーダー会議実施なし 	<ul style="list-style-type: none"> ・居宅事業所連絡会を3回実施する。 ・ヘルパー事業所連絡会、ショート・デイ連絡会、リーダー会（年1～2回）を実施する。
	地域ケア会議（年4回）や事例検討会（年2回）を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援型地域ケア会議7/15、11/18実施 ・処遇困難ケースの地域ケア会議6/13、2/17実施 ・事例検討会6/17、12/14実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議（4回）実施する。 ・事例検討会（2回）実施する。
	民生委員とケアマネジャーとの意見交換会を開催する。	7/13に木戸学区、12/17に小松学区の民生委員とケアマネジャーとの交流会実施。	木戸学区、小松学区の民生委員とケアマネジャーとの交流会を実施する。
生活支援サービス体制整備	第2層協議体を「地域で高齢者と共に暮らすために」をテーマに3回/年開催する。	和邇学区で協議体の立ち上げを提案し、活動メニューや担い手の募り方、スケジュールについて話し合いを重ね、学区の講座で住民の声を拾った。協議体連絡会議7回実施。 来年度、まずは困りごとを吸い上げるために相談窓口を開設し、支え合い活動も並行して行うことになった。	<ul style="list-style-type: none"> ・第2層協議体を年3回実施。その中で、志賀ブロックの地域課題について、改めて今までに出てきた課題を整理する。 ・和邇学区では、困りごとを吸い上げるために、相談窓口を開設する。

生活支援サービス体制整備	地域で活動する各種団体の活動（民間事業者含）の情報共有と地域課題の共有する。	和邇学区より、第2層協議体で支えあい活動をしたいとの意見があり、取り組んだ。和邇学区以外については、第2層協議体で共有する場が持てなかった。	第2層協議体の中で地域課題が共有できるように、問題の見える化をしていく。
	移動支援や買い物支援の方法について地域住民と一緒に検討する。 （活動指標：移動や買い物の支援方法が具体化されたか）	和邇包括がかかっているケースにアンケートの実施はできなかった。来年度実施予定。	・和邇、小松包括がかかっているケースや相談に来られるケースに交通問題のアンケートを実施する。 ・アンケート結果やR4年度の地域ケア会議で意見交換した内容を参考にし、交通問題について検討する。
認知症施策	認知症の人への理解を深めてもらうため、認知症サポーター養成講座や認知症についての出前講座を各学区1回/年以上実施する。 （活動指標：回数、参加人数）	和邇学区で8/2、10/24、小野学区で9/28に認知症サポーター養成講座を実施した。	認知症についての出前講座を実施していけるよう働きかける。
地域づくり活動	地域の動物病院や地域動物愛護団体と協力しながら、一時預かりなどの場所を確保する。	6/13の地域ケア会議の中で、ペット問題について取り組んだ。LOVE & PEACE Prayや民生委員、以前ペット問題に関わりのあるケアマネジャー等が集まり、検討した。	ペット問題について、引き続き動物病院や地域動物愛護団体と協力して対応すると共に預かり先の確保等協議する。
	地域にあるサロンの交流会を開催することで、サロンの活性化を図る。	社会福祉協議会主催の木戸学区サロン交流会に小松包括が参加し、包括の活動を周知すると共に開催状況を把握した。その結果、小松学区のサロンは1箇所も開催されていなかった。担い手がおらず、開催できない所もある。	サロン交流会を通じて、サロンの状況を把握し、未再開サロンの開催に向けての働きかけを実施する。
介護予防活動	介護予防（認知症予防含）のための出前講座を30回/年以上実施する。	・和邇学区8回、小野学区2回、木戸学区1回、小松学区0回実施。昨年度よりも再開したサロンは増えた。 ・いきいき健康祭りが11/12に開催され、歯科講習会を実施した。	・サロン開催に向けての働きかけを実施し、介護予防の視点を入れた講座を実施する。 ・いきいき健康祭にて、認知症予防の啓発を行う。
	OKミーティングの多職種メンバーが地域に出向いて、介護予防の視点で健康相談や健康教育の活動を行う。 （活動指標：地域に出向いた回数）	・新型コロナウイルスのため、市民啓発の実施なし。 ・健康いきいき祭りは新型コロナウイルスの影響で、縮小版の実施であったため、OKミーティングの多職種メンバーによる健康教育や相談の実施はできなかった。	健康いきいき祭りで、多職種メンバーが健康ブースを担当する。また、多職種メンバーが市民啓発を実施する。
	ハツラツ宇宙体操などの媒体を利用し、自宅でできる運動の啓発を行う。 （活動指標：ハツラツ宇宙体操のDVDなどの配布数等）	・ハツラツ宇宙体操のDVDは6枚配布。 ・5箇所のサロンで自宅でできる運動の啓発を行った。	・ハツラツ宇宙体操のみではなく、介護予防の視点を持ったサロンの実施ができるように働きかける。 ・サロン等で、自宅でできる運動の啓発を継続して行う。 ・介護予防サポーター講座に1団体参加予定。

2. 北部ブロック（担当：堅田あんしん長寿相談所、真野あんしん長寿相談所）

取り組み項目	目標（評価指標）	令和4年度の取組実績	令和5年度の取組予定
地域課題から推進すべきこと	ブロック内の自治回覧、マンション、薬局のほかに医療機関や金融機関、スーパー（コンビニエンスストア）等、高齢者の生活に関係が深い機関に「あんしんだより」を配布し、あんしん長寿相談所の認知度を高める。 （活動指標：あんしんだよりの配布場所27か所以上）	堅田あんしん長寿相談所だよりを各機関に持参しPR活動を継続。高齢者が住むマンション2箇所に新たに配布箇所を拡大。合計105箇所（内訳：葛川5、伊香立6、真野7、真野北16、堅田45、仰木4、仰木の里22）	配布できていない機関や高齢者が多く住む集合住宅（マンション等）にも更に配布箇所を拡大して周知につとめる。
	ブロック内の各種団体の生活支援活動（民間事業者含）の情報を把握・集約し、市民や関係者に提供できるようにする。	・住民の困りごとアンケートを作成し、包括の窓口で聞き取り・記入依頼を実施。堅田包括45件、真野包括43件（6/1～2/28回収）	住民の困りごとアンケート結果を分析しまちづくり会議等に反映する。
在宅医療・介護連携	医療機関が遠方であっても地域生活が継続できることを目指し、医療・介護の在宅医療（看取り含む）の連携を強化する。 （活動指標：合同研修会の開催 2回/年以上）	多職種連携活動の企画会議を7回（内6回リモート会議）実施し、エリアの地域課題をふまえて活動内容の検討を行い、研修会（リモート）では、医療従事者の参加を増やすために講師になってもらい開催。4回/年実施 （延べ164人参加） ・企画会議 5/25,7/20,9/15,11/16,1/18,2/24 ・多職種合同研修会 6/16,8/17,10/20,12/21	ブロック内の中核病院と地域の医療機関との連携の強化を図るために、中核病院医師を含めて地域の多職種との合同研修会の開催と市民向け啓発を行う。
	医療・介護連携の報告から市民が情報を得ることで、在宅療養（看取り含む）への不安が軽減できる市民講座を開催する。 （活動指標：在宅療養市民講座の開催1回/年以上）	・R5.2月に在宅療養・在宅看取りをテーマとした市民講座をリモートで開催（市民60人、スタッフ16人参加）し、啓発用のDVD媒体作成。 ・市民講座に参加できなかった希望者に3月より媒体の貸出開始。 ・サロンにて在宅療養・看取りのリーフレットを配布。 ・認知症カフェ（仰木）にて在宅療養の内容のショートコントを3回実施。	・R4年度作成したDVD「在宅療養・在宅看取り」を用いて、キャラバン活動や個人向けにDVD貸出を実施する。 ・日々の活動（サロンや訪問等）の中で、在宅療養・看取りのリーフレットを配布し情報提供を行う。
生活支援サービス体制整備	第2層協議体のテーマを「地域で安心して暮らすためにみんなで一緒に見守り力を高めあおう！！」とした会議を開催する。	・仰木学区で2層協議体を立ち上げ、2層協議体7回実施。4/29,6/23,7/28,8/9,9/29,11/29,1/31すこやか相談所職員も入り地域の実情について協議を行った。 ・他学区のまちづくりに関する会議参加は未。	・仰木学区平尾自治会での見守り活動の進捗状況を確認しながら必要時に第2層協議体を開催。 ・ブロック内で活動する地域の各種団体・活動の関係者と多職種等が交流できる場を設け、情報交換を行う。
	市民や地域の各種団体と地域課題を共有し、住民主体で見守りができるように進めていく。 （活動指標：第2層協議体の開催 3回/年以上）	・向陽町見守り会議・防災研修に参加（5/8、9/4） ・エリア地域ケア会議で、習合住宅に住む認知症高齢者の課題について、地域の方と各関係機関の関係者と地域課題を共有。 ・R5.3月に堅田学区民生委員児童委員協議会と包括職員との交流会を実施。	地域ケア会議や学区まちづくりに関する会議等の参加を通して、市民や地域の各種団体と地域課題を共有し、住民主体で見守りができるよう働きかけを行う。

<p>認知症施策</p>	<p>認知症についての理解を深め、認知症の早期発見・早期対応や地域で見守りや支援ができるように認知症サポーター養成講座及び出前講座を開催する。 (活動指標：講座の開催 13回/年以上)</p>	<p>・認知症カフェやサポーター養成講座で認知症に関する啓発を実施。堅田介護者のつどい4回、今堅田縁カフェ5回。談笑の会すみれ R5.2/15 ・認知症カフェ(仰木太鼓会館)4/22,5/27,6/24,7/29,1/25,12/23,2/24,3/24) (泉福寺縁プロジェクト)4/10,5/8,6/13,7/10,8/21 ・堅田にある銀行6箇所に企業向け認知症サポーター養成研修のちらしを配布し案内を行った。</p>	<p>・認知症高齢者を抱える地域の方と地域ケア会議を通して見守り体制を強化する。 ・地域へ出前講座の際には、認知症予防啓発内容を取り入れて実施する。 ・既存のサロン等にも必要としている情報が提供できるようにする。</p>
<p>地域づくり活動</p>	<p>サロン等の気軽に行ける場所の少ない地区に対して「地域づくり聞き取りシート」アンケート結果から、地域での交流の場の必要性を伝え、サロン等の立ち上げにつなげる。 (活動指標：サロン等の立ち上げ 1か所/年以上)</p>	<p>仰木学区平尾自治会にて、声かけ運動を進める中で、周知や成果が見えにくい等が課題となり、並行して女性部への見守り活動のお願いを実施。女性部への見守り引継ぎ資料が完成し住民周知用のちらしとポスターが完成。</p>	<p>サロン等、集いの場が少ない地区の関係者に対して、地域の実情に応じて、地域の交流の場の必要性を伝え、サロン等の立上げを促していく。 堅田学区の民生委員とケアマネとの交流会開催により情報交換を行う。</p>
<p>介護予防活動</p>	<p>地域のサロン主催者や、今後サロンを開催予定の団体を対象に、サロン交流会を開催し、サロンの継続や充実、立ち上げ支援を行う。 (活動指標：サロン交流会開催 1回/年以上)</p>	<p>・仰木の里学区におの会で女性部の立ち上げに参加。 ・堅田学区で1箇所のマンション自治会より立上げ相談があり、継続・充実に向けた支援を実施。</p>	<p>引き続き、地域でのサロン活動や老人クラブの集まりの活動状況の把握を行い、活動休止中や気軽に行ける場所の少ない地区に働きかけて、サロン等の立ち上げや継続支援につなげる。</p>
<p>介護予防活動</p>	<p>特にこれまで出前講座等の依頼のないサロンや老人クラブに積極的に出かけて行き、介護予防の普及啓発を行う。 (活動指標：新たなサロン等での出前講座の開催 1か所/年以上)</p>	<p>・健康いきいき講座：西勝寺9/10,浜10/29,生津11/15,2/15,真野北1/11,美空3/4,衣川台10/20,におの会10/26,心友会11/30 ・介護予防（各学区の出前講座の実施） 仰木の里・里東学区5回、仰木学区2回、堅田学区1回 ・サポーター応援講座2箇所（仰木の里・里東） ・セラピスト出前講座7箇所実施 ・いきいき百歳体操の立上げ支援2箇所（堅田）</p>	<p>・地域のサロンや老人クラブ等の活動状況を確認し積極的に働きかけ、介護予防のための運動、栄養の情報提供や出前講座を実施する。 ・R4年度いきいき百歳体操の立上げ支援をおこなった2箇所について、活動継続のための状況確認と充実のための情報提供を行う。</p>
<p>介護予防活動</p>	<p>特にこれまで出前講座等の依頼のないサロンや老人クラブに積極的に出かけて行き、介護予防の普及啓発を行う。 (活動指標：新たなサロン等での出前講座の開催 1か所/年以上)</p>	<p>・新たなサロン等での出前講座の開催 2か所（仰木の里）心友会老人クラブ、仰木の里北自治会館） ・百歳体操の立上げ支援 2箇所（堅田学区市民センター9/6,9/30,10/28、堅田マンションのラヴェスト自治会2/1,2/22,3/22）</p>	<p>訪問活動やあんしん便りの配布など地域活動を通して周知を継続して行い、出向いたことのないサロンや老人クラブに積極的に出向き、介護予防普及啓発を行う。</p>

3. 中北部ブロック（担当：比叡あんしん長寿相談所、比叡第二あんしん長寿相談所）

取り組み項目	目標（評価指標）	令和4年度の取組実績	令和5年度の取組予定
地域課題から推進すべきこと	高齢化、地域特性から見出される課題についてあらゆる世代や分野に地域の現状や問題提起を行う機会を作る。 （活動指標：教育機関、商業施設等1か所/年以上）	ブロック社会福祉協議会連絡会に出席し、地域の課題の共有や、意見交換を行った。	引き続き学区社協や民協との連携を強化し、地域の課題を共有し検討する機会を持つ。また、あらゆる世代が利用する商業施設等に「あんしんだより」を配布するなど、高齢化や地域の課題に意識を向けてもらえるよう働きかける。
	あんしん長寿相談所の役割について、地域内の幼稚園、小中学校等の教育機関、美容院等に「あんしんだより」を配布し、様々な年代の住民に対して認知度を高める。 （活動指標：新たな場への「あんしんだより」の配布数や設置数）	坂本児童館や交番に「あんしんだより」を配布し、包括支援センターの役割について周知を図った。交番側からも、特殊詐欺の注意喚起の啓発の依頼を受けた。	子育て世代や働き盛りの世代にも、包括支援センターの役割について効果的に周知できるよう、地域内の商業施設（平和堂坂本店、美容院等）や小中学校等の教育機関、幼稚園にも働きかけて「あんしんだより」を配付する。
在宅医療・介護連携	多職種連携事業 地域ケアシステムの構築を目標に、それぞれの専門職種の役割についての研修会、専門性を生かした連携・連帯のあり方について検討する研修会を計画的に行う。 （活動指標：研修会実施 3回/年）	11/17多職種合同研修会を開催。大津市の災害対策について現状と今後の取り組みについての理解を深めて、各職種の災害時の支援や連携のあり方について研修を実施した。在宅療養について市民啓発活動として、FM OTSUラジオに出演し、ひえい在宅応援団について紹介する機会をもった。	在宅療養についての市民啓発活動として、学区単位での講座の再開や「あんしんだより」に在宅療養に関する記事を掲載する。多職種を対象に在宅看取りや災害対策等についての研修を開催し、支援や連携のあり方について検討する機会を持つ。
生活支援サービス体制整備	第2層協議体については、福祉に関わる団体と地域団体との協働をテーマに実施する。 （活動指標：年2回）	「唐崎みまもりネット」の事業状況や課題について検討する事務局会議に出席。地域活動団体への見守り活動協力を依頼するため、説明会開催の支援を行った。	比叡エリア内の福祉事業に取り組む事業所の協議体である「おむすびネット」と連携して、具体的な地域貢献活動について検討し、関係する事業所と共に実施する。「唐崎みまもりねっと」の活動内容や課題について、事務局との協議に参加し検討する。
	福祉的なサービスを提供する団体（民間事業所やボランティアを含）と地域住民とのつながりを構築し、協働にむけた活動を検討する。	民生委員とケアマネとの交流会の開催には至らなかった。	学区単位で民生委員とケアマネとの交流会を開催し、互いの役割や活動の現状について共有し、理解と協力が得られる機会をもつ。
認知症施策	認知症の人への理解を深めてもらうため、認知症サポーター養成講座、認知症をテーマとした出前講座を実施する。 （活動指標：各学区1回/年以上）	認知症サポーター養成講座11/22.12/12 高齢者サロンにて認知症について講座4/27,11/30	認知症の人への理解と、地域での見守りの啓発を目的に、高齢者サロン等地区組織に働きかけ、出前講座や認知症サポーター養成講座を開催する。
	認知症初期集中支援チームとの定期的な情報交換を行い、地域の課題を見いだし、あんしん長寿相談所の活動に生かす。	認知症初期集中支援チームと月1回定期的な情報交換の会議を持ち、支援内容や課題について情報共有し検討する機会をもった。	認知症初期集中支援チームとの会議に担当ケアマネの参加を勧めて認知症支援の方向性を共有する。また会議を通して地域の課題を検討し、的確に連携した対応ができるようにする。

地域づくり活動	ふれあいサロン交流会に出席し、地域サロン主催者向けにあんしん長寿相談所の取組や地域活動の重要性について説明します。また、サロン等の世話役の育成等について検討する。 (活動指標：年1回)	ふれあいサロン交流会の開催には至らなかった。	高齢者サロン立ち上げに向けての支援や、サロン再開に向けての助言、協力を行う。
介護予防活動	「あんしんだより」に介護予防についての情報提供を掲載する。	高齢者対象に地域が行っているふれあい給食時にあんしんだよりを配付してもらえるよう依頼した。	あんしんだよりに介護予防に関する情報を掲載し、商業施設や医療機関等にあんしんだよりを配置することで、広く介護予防について啓発する。
	各学区の地域サロンに参加し、フレイルをテーマにした出前講座を各学区2回/年以上実施します。共通のアンケートを実施する。 (活動指標：生活に取り入れられると回答した人の割合 80%以上)	老人クラブ主催のサロンにて、介護・フレイル予防を目的に出前講座を実施した。 4/27,8/1,11/30,2/20 平和堂坂本店での「いきいき百歳体操」の再開について支援を行った。	比叡あんしん長寿相談所が、R5年10月に平和堂坂本店に移転するため、3階コミュニケーションスペースを活用して、介護予防、フレイル予防を目的とした講座を開催する。
	出前講座や相談所の紹介などを行ったことがないサロン等に連絡して実施出前講座等を実施する。 (活動指標：1か所/年以上)	高齢者サロンに感染症予防対策消耗品の配付に際して、サロンの実施状況を確認し、再開に向けての相談、助言を行った。	あんしんだよりの配布や地区組織への活動を通じて、介護予防活動の必要性を周知し、サロン再開の支援や出前講座の利用につなげる。

4. 中部ブロック（担当：中あんしん長寿相談所、中第二あんしん長寿相談所）

取り組み項目	目標（評価指標）	令和4年度の実績	令和5年度の実績予定
地域課題から推進すべきこと	あんしん長寿相談所の認知度を高めるため、住民がよく行く場所や高齢者マンションにあんしん長寿相談所案内のチラシを設置する。	ナカマチ商店街連合会に加入する店舗にあんしんだよりを配布した。（105件） 7/25 ナカマチ商店街連合会理事会に出席し、中あんしん長寿相談所の紹介を行った。	住民がよく行く場所（店舗や機関等）に出向く等様々な機会を通して、あんしん長寿相談所の周知を行い、あんしんだよりの設置場所を増やしていく。ナカマチ商店街のラジオ体操参加者にあんしん案内を配布し、周知を図る。
	民生委員等と連携し、一人暮らしや高齢者世帯宅を訪問し、相談窓口の周知を行う。	年度当初と改選後に民児協定例会に出席し、相談窓口の周知とあんしん長寿相談所の業務（介護予防、虐待防止等）を紹介した。民生委員から相談のあった一人暮らしや高齢者世帯については、連携して介入できた。定例会への定期参加はできなかったが、民生委員とケアマネジャーの交流会を逢坂学区と藤尾学区で開催できた。	民生委員にあんしん長寿相談所の役割を周知し、民生委員より一人暮らしや高齢者世帯の情報提供してもらおう働きかける。中第二あんしん長寿相談所エリアではケアマネカードの利用を促進する。
	住民と関わりの深い商店街やお寺に出向くことで、あんしん長寿相談所の理解を高め、早期に相談ができる仕組みを作る。	ナカマチ商店街連合会（菱屋町・丸屋町・長等商店街）に働きかけ、あんしん案内及びあんしんだよりを各店舗に配布し、各商店で気になるケースがあった際に、相談できる場としてあんしん長寿相談所の周知を行った。	前年度までに繋がりの出来たお寺や商店街等の関係者に対して、気になるケースがあった際に、早期にあんしん長寿相談所に相談が入るよう、改めて協力依頼し、連携の仕組みを定着させる。
	8050問題に早期に介入するため、すこやか相談所や保健予防課と連携を深め、引きこもりケース家族の支援に関わる。	介護で関わった高齢者宅で、精神やひきこもり等の問題を抱えた家族を発見し、すこやか相談所や保健予防課、市社協等と連携し、引きこもりケースの支援につながった。	引き続き関係機関等との連携により、8050問題の早期対応につなげていく。
在宅医療・介護連携	在宅療養を推進するため、多職種研修会や事例検討で在宅療養や看取りについての課題を共有し、連携の仕方や対応について検討する。 （活動指標：参加者アンケートで在宅療養や看取りについての理解が深まったと回答した人の割合 80%以上）	要介護度が上がらない地域を目指すことを目的に、「アフターコロナ、フレイルに負けるな」をテーマに、在宅療養の合同研修会をオンラインで2回行い、盛況には終わるが市民啓発に関しては来年に持ち越す形となる。	在宅療養や看取りについての課題を共有し、対応方法を学ぶため、多職種研修会を2回開催する。また、医療職・介護職と連携し、一般市民に向けた在宅療養に関する啓発のあり方を検討の上、実施する。
生活支援サービス体制整備	第2層協議体のテーマを「地域の和を深める」とし地域の関係者（商店街、スーパー、薬局、銀行、交番等）を交えた会議を年3回開催し、地域でのつながりや見守り、助け合いを強化する。 （活動指標：地域関係者の会議に毎回参加）	全体会議実施前のコア会議3回、全体会議3回を実施。今年度は、気軽に集まれる居場所を提供するための手段としてラジオ体操を活用し、丸屋町商店街にある曳山展示館のスペースで居場所作りを展開。ラジオ体操に来る固定メンバーいるものの、横のつながりを作る等の本来目的まで達成はしていない。また、移動支援や買物支援については活動できず次年度に持ち越す。	曳山展示館でのラジオ体操の場が、地域のつながりや見守り、助け合いの場となるよう、第2層協議体の会議で関係者と協議する。
認知症施策	認知症の理解を深めるために、認知症サポーター養成講座や出前講座を2回/年以上開催する。	今年度は認知症サポーター養成講座の周知啓発は実施できなかったが、養成講座は2件実施。	独居の高齢者の多い地域に向けて出前講座や認知症サポーター養成講座を周知し、認知症サポーター養成講座を2回以上開催する。

認知症施策	<p>独居の認知症ケースを抱える地域については、個別の地域ケア会議と出前講座の開催で地域の見守り体制を強化する。 (活動指標：1回/年以上)</p>	<p>個別の地域ケア会議は3件開催し、地域での見守り体制の構築に努めているが、出前講座の開催には至っていない。ナカマチ商店街にオレンジ協力隊の働きかけは出来ず、次年度に持ち越す。</p>	<p>認知症ケースの見守り体制を強化するため、ナカマチ商店街へオレンジ協力隊の働きかけを行う。認知症を発症しても本人・地域住民が安心して暮らせる地域づくりを目的に関係者と協議を行う。</p>
地域づくり活動	<p>地域住民が望む地域づくり活動を把握するために住民にアンケートを実施する。</p>	<p>R4年5月藤尾学区全域に、住民が居場所の必要性を感じているか、また、どのような居場所があったらいいかのアンケートを実施した。5割以上の回答があり、年齢層を問わずお茶やお喋りが出来る居場所の要望があった。</p>	<p>長等・中央学区では、商店街でのラジオ体操の場で、アンケートを実施しニーズ把握を行う。</p>
	<p>アンケートの結果に応じて、地域役員やボランティアと協力して活動の企画を立案する。 (活動指標：アンケート実施及び活動の企画 1学区/年以上)</p>	<p>R4年5月藤尾学区全域を対象に実施したアンケート結果を受け、R4年11月23日に、藤尾奥町普門寺にて「憩いの場藤尾」を開催した。</p>	<p>藤尾学区の普門寺の「憩いの場藤尾」を定期開催するため、まちづくり協議会が実施する会議にあんしん長寿相談所が参画し、アンケート結果（住民の声）を反映させていく。地域役員とボランティアで運営できるよう協議する。</p>
介護予防活動	<p>介護予防のための出前講座、いきいき講座を実施する。※中第二包括エリアでは低栄養予防についての内容も盛り込む。 (活動指標：30回/年以上)</p>	<p>介護予防サポーター研修を中央と逢坂で実施した。介護予防のための出前講座（セラピスト講座）を長等で1回、藤尾で1回実施した。令和4年度はコロナの影響で多くのサロンが活動を停止していたことが要因と思われるが、R5年度に向けては、既に2件の予定が入っている。</p>	<p>活動を再開するサロンが増えてきているので、サロン周りをを行い、サロンの実態を把握するとともに、出前講座、いきいき講座を周知・実施する。</p>
	<p>感染症が流行している時期に家でも取り組める体操等、介護予防のための情報をまとめたチラシを作成し、配布する。</p>	<p>家で取り組める体操などの情報提供はできなかったが、あんしんだよりでラジオ体操、宇宙体操の紹介をし、個人やサロンで宇宙体操をしたいと来られた方が3件あり、DVDを配布した。</p>	<p>訪問や相談、サロン等の際に、あんしん長寿相談所で作成したチラシを配布し、家でも取り組める体操等、介護予防についての情報提供を行う。あんしんだよりでも介護予防について周知を行う。</p>

5. 中南部ブロック（担当：膳所あんしん長寿相談所、晴嵐あんしん長寿相談所）

取り組み項目	目標（評価指標）	令和4年度の取組実績	令和5年度の取組予定
地域課題から推進すべきこと	<p>高齢者の生活に密着している関係機関に「あんしんだより」を配布するとともに、掲示または設置の協力を依頼し、あんしん長寿相談所の認知度を高める。（大型スーパー、コンビニ、商店街の商店、医療機関、金融機関、交番、マンションの管理人等）また、会社等に勤務する人は、地域の福祉・介護に関する情報に接する機会が少ない傾向があるため、大津商工会議所と連携して地域の企業に出向き、あんしん長寿相談所の周知を行う。 （活動指標：関係機関 60か所、民間企業5か所）</p>	<p>あんしんだよりの配布：膳所学区18箇所・平野学区24箇所・富士見学区10箇所・晴嵐学区20箇所。新規開業の医院や交番への働きかけを行った。配布をした機関から、地域住民の相談が入ったり、あんしん長寿の啓発をしたり、連携が出来てきている。大津商工会議所との連携は出来ていないが、地域の銀行や薬局等企業と連携した事業の中で、あんしん長寿相談所の周知を行った。</p>	<p>今年度配布した機関には継続して「あんしんだより」配布 60箇所 地域状況を検討の上、新規掲示・設置の協力箇所を増やし、認知度を高める。地域の企業に出向き、連携を図る。</p>
	<p>虐待予防への取組として、危機的な事態が生じる前に早期に発見、対応が行われるよう、地域での見守りの必要性について、民生委員や住民に対して啓発する機会をもつ。 （活動指標：10回以上／年）</p>	<p>地区組織への挨拶や中南部ブロック保健福祉関係者連絡会等を通して、包括が虐待対応をしていることを周知。あんしん案内に虐待対応についての情報を掲載し、啓発を行った。また、出前講座の機会を活用して、虐待予防の取り組みについて、啓発を行った。</p>	<p>地区組織との会議や出前講座の機会を利用して住民にも広く周知をしていく。</p>
在宅医療・介護連携	<p>多職種により、ターミナルケアをテーマに合同研修会を開催し、在宅療養における各職種の役割についての理解を深める。 （活動指標：参加者アンケートで他職種の役割が理解できたと回答した人の割合80%以上）</p>	<p>多職種連携市民講座を3年ぶりに集合形式で平野コミュニティセンターで開催。参加者84名。 大津市在宅介護医療事業所向け研修会を開催。1回（3/5・オンライン）実施。参加者75名+a。アンケート結果は現在集計中。</p>	<p>在宅看取りをテーマに研修会を開催予定。より多くの職種が参加できるよう検討する。市民向けの研修会を開催し、広く啓発を行う予定。</p>
生活支援サービス体制整備	<p>第2層協議体を「高齢者が住みやすい街づくり」を目的に対象学区において3回/年開催し、地域で活動する各種団体の活動（民間事業者含）の情報共有と地域課題について検討する。</p>	<p>中南部ブロック全体での第2層協議体の活動についての共有会は開催できていない。 （膳所） 協議体連携会議 4回実施。いのちのボタンを活用した地域見守りネットワーク体制をテーマに話合っている。命のボタンの配布を自治会を通して実施。自治会未加入者への対応について検討中。支所、学区社協、学区民協、警察に加え、今年度より市ケアマネ協、消防もメンバーとして参加。 （平野） 自治会単位での聞き取りについて、自治会長、副会長と相談。 （晴嵐・富士見） 協議体連携会議4回、お悩み共有会として実施。前年度からのお買い物支援冊子の作成・配布と取組みの振り返りを行った。今後の取り組みについての検討を行った。</p>	<p>（膳所）いのちのボタンを活用した地域見守りネットワーク体制について引き続き検討する。 （晴嵐・富士見） お悩み共有会を継続して開催予定。「防災」をテーマに地域の体制等について検討予定。</p>

生活支援サービス体制整備	第2層協議体において、買い物や移動等高齢者が日常生活で直面している課題と取組について検討する。 (活動指標：地域課題を抽出し、必要な取組について検討できる。)	中南部ブロック全体での第2層協議体の活動についての共有会は開催できていない。 (膳所) 協議体連携会議 4回実施。いのちのバトンを活用した地域見守りネットワーク体制をテーマに話合っている。命のバトンの配布を自治会を通して実施。自治会未加入者への対応について検討中。支所、学区社協、学区民協、警察に加え、今年度より市ケアマネ協、消防もメンバーとして参加。 (平野) 自治会単位での聞き取りについて、自治会長、副会長と相談。 (晴嵐・富士見) 協議体連携会議4回、お悩み共有会として実施。前年度からのお買い物支援冊子の作成・配布と取組みの振り返りを行った。今後の取組みについての検討を行った。	(膳所) いのちのバトンを活用した地域見守りネットワーク体制について引き続き検討する。 (晴嵐・富士見) お悩み共有会を継続して開催予定。「防災」をテーマに地域の体制等について検討予定。
認知症施策	認知症の人への理解を深め、認知症が重症化するまでに早期発見、早期対応の必要性や地域での見守りについての啓発を目的に、出前講座や認知症サポーター養成講座を開催する。 (活動指標：講座の開催回数 40回/年以上)	認知症サポーター養成講座3回(膳所2回、平野1回) 出前講座 3回(膳所1回、晴嵐1回、富士見1回) 今年度も、新型コロナウイルス感染症流行の影響により講座回数が激減している。 地域ケア会議の中で「認知症を患った方への支援」について話し合った(膳所・平野・富士見・晴嵐 7件)。	出前講座、認知症サポーター養成講座の周知をおこなう。 出前講座の中で意識的に認知症についての話をとする。
地域づくり活動	中南部ブロック保健福祉関係者連絡会を民生委員や関係機関を対象に開催し、地域課題について共有する。 (活動指標：開催 2回/年)	中南部ブロック保健福祉関係者連絡会実施。2回。今年度は中南部ブロック全体で集まって開催。 各取り組み報告と地域課題について共有し、連携して地域づくりを行う方法について検討する。2回目はグループワークを実施し、地域の課題共有と共に各組織での次年度の取組みについて検討することが出来た。	中南部ブロック保健福祉関係者連絡会を年2回開催し、地域課題について検討する。
	民生委員とケアマネジャーの交流会を開催し、顔の見える関係づくりを推進し、社会資源や高齢者支援についての課題について共有する。 (活動指標：開催：1回/年以上)	令和4年度、民生委員児童委員の改選年のため、次年度開催予定。	民生委員とケアマネジャーの交流会を開催(年1回)し、顔の見える関係づくりや地域課題の検討を行う。
高齢者が身近な地域で交流できる機会が少ない地区に対して、必要性を把握しサロン等の立ち上げ支援を行う。 (活動指標：サロン等の立ち上げ支援1か所/年以上)	平野学区のマンションでいきいき百歳体操を行うサロンの立ち上げ支援を実施。富士見学区でのサロンの立ち上げ支援を実施。膳所・平野学区山手でのサロン立ち上げについて昨年協議していたサロンが立ち上げをされた。休止しているサロンへの再開支援や継続支援を行うと共に、サロン18か所に感染対策グッズの配布を行った。	地域でのサロン、老人クラブ等や活用できる場所等社会資源の情報把握を行い、必要に応じてサロン等の立ち上げ支援を行う。	

介護予防活動	<p>運動機能の低下予防や低栄養の予防についての情報をサロンや老人クラブ、外出機会が減少している高齢者等に提供し、フレイル予防の普及啓発を行う。 (活動指標：介護予防に関する出前講座の開催 50回/年以上)</p>	<p>膳所学区 6回、平野学区 7回、晴嵐学区 6回、富士見学区 5回実施。 新型コロナウイルス感染症流行に伴い、サロン等の開催回数が減少している。 あんしんだよりを活用し、啓発を行った。</p>	<p>サロン等に出向き、介護予防（認知症予防含）の啓発の出前講座実施する。</p>
	<p>身近な場所で、いきいき百歳体操が実施できるよう自主グループの立ち上げ支援を行う。 (活動指標：1か所/年以上)</p>	<p>いきいき百歳体操自主グループの立ち上げ支援を1箇所行った。 コロナ禍におけるサロン等の活動状況の確認と感染対策の普及啓発を行った。</p>	<p>身近な場所でいきいき百歳体操が実施できるよう自主グループの立ち上げ支援を行う。</p>

6. 南部ブロック（担当：南あんしん長寿相談所）

取り組み項目	目標（評価指標）	令和4年度の取組実績	令和5年度の取組予定
地域課題から推進すべきこと	<p>地区組織への挨拶やスーパー・コンビニエンスストアのほか、これまで依頼していなかった医療機関、薬局、整体等の施術院などへの「あんしんだより」の掲示、ふれあい給食時の「あんしんだより」の配布からあんしん長寿相談所の認知度を高め、認知症の人や家族の相談場所であることも伝える。</p>	<p>支所、駐在所、郵便局、金融機関、コンビニ、スーパー、J Aの他、サロンでのセラピスト講座、いきいき健康講座の開催時にあんしんだよりを配布したが、新規配布機関の開拓は出来なかった。</p>	<p>地域の医療機関、薬局、スーパー等すでに依頼している、あんしんだよりの配布先に引き続き依頼するとともに新しく開設された薬局、スーパーを含めて、すこやか相談所とも連携し介護家族世代にあんしん長寿相談所の周知を図る。</p>
	<p>すこやか相談所や民生委員と協力して、8050問題ほか虐待予防へ早期に取り組む。</p>	<p>民生委員からの相談も含めて支援を要する若年者との同居高齢者の相談に対し、相談時からすこやか相談所や保健所と情報共有し、ケアマネジャーも含めて情報共有しながら支援につなげた。</p>	<p>引き続き、すこやか相談所・保健所と連携し、必要な場合は相談当初から情報共有や検討する場を持つていく。</p>
在宅医療・介護連携	<p>研修会の参加者は増えており、一定範囲で安定しているものの参加者が固定化しているため新たな参加者を増やしていく。</p>	<p>4.9.14と5.2.1の2回実施。今年度は療養というテーマから外れたが防災に関して多職種や事業所の連携について研修。しばらく出ていなかった事業所の参加は得られた。また、防災というテーマで地域にも関係するので民生委員にも案内し数名の民生委員等地域からの参加も得られた。</p>	<p>在宅療養での不安があるとのR4年度の参加者アンケート結果から、在宅療養での不安を軽減できるような支援方法を提案できるよう研修を計画する。 「在宅療養」をテーマに年2回以上開催する。</p>
	<p>市民講座（在宅療養応援講座）を年1回開催しているが小単位の出前講座で啓発を推進する。 （活動指標：合同研修会 2回/年、在宅療養応援講座 1回/年、出前講座 随時）</p>	<p>コロナ禍で2年ほど中止していたが今年度は全体ではなく学区に働きかけ田上学区のサロンと石山学区で2回実施。田上のサロンは「ただいま」のDVDを使用し在宅療養全般の話をする。石山学区は在宅療養とフレイル予防の話をする。</p>	<p>市民講座を年1回以上開催する。 小さな単位でも開催できるように学区社協とも連携して検討していく。</p>
生活支援サービス体制整備	<p>地域課題の把握・共有のため、地域の組織・各種団体を交えて、第2層協議体を開催する。 （活動指標：3回/年開催）</p>	<p>石山学区ではサロンが立ち上がりつつあり、内容や講師について支援している。 田上学区では福祉に関する相談の包括への引継ぎ所として掲示するステッカーを作成し、介護事業所等へ依頼している。</p>	<p>石山学区ではサロンが立ち上がりつつあるが、現在のところ主導が包括寄りな状態のため住民主体の取組みに移行していく。 田上学区では福祉に関する相談の包括への引継ぎ所の実働に向けて関係機関と調整していく。</p>
認知症施策	<p>認知症の人への理解を深め、早期対応につなげるため認知症サポーター養成講座または認知症についての内容を含めた健康講座を行う。 （活動指標：養成講座 各学区1回/年以上、健康講座 10回/年以上）</p>	<p>認知症の方についての個別の地域ケア会議は複数回行ったが、エリア会議は未実施。</p>	<p>引き続き、認知症サポーター養成講座の周知、開催の場を広めるとともに、認知症の方について自分ごととして意識や理解が深まるよう努めていく。</p>

	「あんしんだより」へ認知症サポーター養成講座について掲載する。 (活動指標：毎号掲載)	あんしんだよりに認知症サポーター養成講座の案内を記載し、年度初めの地域組織への挨拶時にも案内。 認知症サポーター養成講座を3回行った。	あんしんだよりに認知症サポーター養成講座の案内を記載し、年度初めの地域組織への挨拶時にも案内。 出前講座の機会にも案内し、開催団体を募る。
地域づくり活動	地域活動の中で出た個別課題の検討を重ねることでエリア課題の把握、共有を図り、地域づくりにつなげることを目的に地域ケア会議を開催する。 (活動指標：3回/年開催)	困難事例の個別地域ケア会議は4回実施。	個別地域ケア会議を実施する中で見えてくる地域課題を共有し地域づくりにつながるように継続して実施していく。
介護予防活動	「あんしんだより」に介護予防について情報を掲載し、外出を自粛されている高齢者への周知を図る。	石山学区のサロンは立ち上がりつつあり、介護予防に関する情報や講師について支援している。 田上学区ではサロンのような形にならずとも気軽に立ち寄れる場づくりを検討している。	あんしんだよりに介護予防に関する情報を掲載し、地域組織、既存のサロン等へ案内する。 立ち上がりつつある石山学区のサロンや田上学区の気軽に立ち寄れる場で介護予防について情報提供できるよう地域の方と検討していく。
	介護予防（認知症予防含む）のための出前講座を10回/年以上実施する。	昨年度、感染予防物品を配布したサロンに対し今年度も配布する際に出前講座を案内。いきいき健康講座、セラピスト講座を含めて介護予防の講座を12回行った。	各学区の既存のサロン等に出前講座の案内を行う。石山学区で立ち上がりつつあるサロンでも介護予防に取り組んでいただけるよう支援していく。 出前講座は年10回以上実施したい。
	石山学区を含めて、いきいき百歳体操の立上げを支援し、各学区1か所以上実施・継続されるよう支援を継続する。	田上学区での百歳体操のサロンでの立上げはなかったが、気軽に立ち寄れる場を作りたいとの住民の方の意向を確認、共有した。	石山学区のU Rにおいて介護予防を目的としたサロンが立ち上がりつつあり、情報提供や講師に関して支援していく。

7. 東部ブロック（担当：瀬田あんしん長寿相談所、瀬田第二あんしん長寿相談所）

取り組み項目	目標（評価指標）	令和4年度の実績	令和5年度の実績予定
地域課題から推進すべきこと	学区社協やブロック別社会福祉協議会連絡会に出席し、あんしん長寿相談所の認知度を高め、連携を強化する。	ブロック別社会福祉協議会連絡会に毎回出席した。瀬田学区は福祉委員の勉強会に参加したり、昨年度に引き続き詐欺防止の取り組み事業に毎回参加し連携を深めた。瀬田南学区は福祉委員勉強会やサロンの立ち上げ等で積極的に連携をとることができた。	一部の学区は学区社協との連携ができていないため、引き続き学区社協との連携を強化する取り組みを進める。
	あんしん長寿相談所の認知度を高めるため、地区組織や老人福祉センター、医療機関、薬局、銀行、郵便局、スーパー、地元の商工会など広く「あんしんだより」等の配布や掲示を行い周知する。	昨年度に引き続き、地域の様々な機関に向き配布した。様々な世代が利用している商業施設や、新しくできたスーパーにも新たに配布した。草津市の大型商業施設には相談にいけない。あんしんだよりはフレイル予防の内容を取り入れ、市民の目に付きやすい内容にした。	瀬田地域では市内でも若い世代の人口も多いため、更なる周知方法を検討し、あらゆる機会に周知を行う。
	民児協との相談会を実施し、認知症支援や虐待の相談対応を行う。 （活動指標：1回/年以上）	瀬田、瀬田南、瀬田東、瀬田北、青山学区で高齢者虐待をテーマに実施した。地域課題、対応事例などを話し合い、情報交換の良い機会となった。また、瀬田南学区では民児協のなんでも相談会で認知症サポーター養成講座を行った。	各学区の課題に応じた情報交換や相談会を実施する。
	あんしん長寿相談所から遠い住民には電話や訪問で対応し、来所せずに相談できることをサロンや地域に出向く機会を捉えて周知する。	希望で訪問での相談対応も行った。相談と同時に生活状況を実際に確認でき効率的な対応ができた。また、サロン参加時や民生委員挨拶等で訪問での相談についての周知を行った。	引き続き周知を続け、関係機関と連携して支援を実施していることを広く知ってもらう機会を増やす。
在宅医療・介護連携	在宅療養における多職種の役割について理解を深め、連携を強化するための専門職研修会を開催する。 （活動指標：参加者アンケートで多職種の役割が理解できたと回答した人の割合70%以上）	防災をテーマに専門職研修会を実施し、多職種の連携を深める機会をもてました。また、瀬田地域在宅医療支援リストを作成し関係者に配布しました。	多職種活動を地域で広めるために、参加のなかった在宅療養の関係者への参加を呼びかけたり、連携を強化するための専門職研修会を開催します。また、瀬田地域在宅医療支援リストの活用方法の検討、更新を行います。
	在宅療養支援は病気になった段階から始まるアドバンス・ケア・プランニング（ACP）に関する内容を、市民向けの講座や「あんしんだより」等で啓発する。 （活動指標：1回/年以上）	住民向けの研修については、コロナの感染拡大のため実施できませんでした。あんしんだよりはフレイル予防をテーマにしたため、ACPについての情報提供はできませんでしたが、多職種連携による啓発を行うことはできました。	住民向けの研修については、地域課題、その時の高齢者に関する情報を交えて引き続きアドバンス・ケア・プランニング（ACP）について企画します。また『あんしんだより』においてもアドバンス・ケア・プランニング（ACP）について情報提供を行います。

生活支援サービス体制整備	<p>第2層協議体「住みまちプロジェクト」のテーマを「ボランティア（ボランティアに興味はあるが、始めるきっかけがない）」とし、アンケート結果を元に出会いのボランティアカフェを開催する。 （活動指標：ボランティアカフェの参加者アンケートにより、ボランティア活動の理解が深まったと回答した人の割合 70%以上）</p>	<p>ボランティア活動の活性化を通じて地域のつながりを強めることを目的に、活動内容の似ているボランティアグループで活動の課題を話し合った。企画メンバーが増えたため、ボランティアカフェの開催は企画せず、新たな繋がりができたこともあった。瀬田商工会絆まつりや勢多市においてボランティア活動のPRブースを出展した。</p>	<p>引き続き第2層協議体「住みまちプロジェクト」において地域課題を話し合う。</p>
生活支援サービス体制整備	<p>居場所（住んでいる地域に気軽に集まれる場所がほしい）の維持及び居場所の活動グループを増やすため、ボランティアカフェ参加者を居場所の活動につなげる。 （活動指標：1か所以上）</p>	<p>参加者や大津市社協からの情報でボランティア団体の情報収集を行い、住みまちプロジェクトの参加に繋がる団体もあった。</p>	<p>地域住民の中でボランティアで力を発揮できる高齢者については、ボランティア活動を紹介していく。タイムリーに紹介できるように地域のボランティア団体の情報収集を行う。</p>
認知症施策	<p>認知症（若年性認知症を含む）を理解する住民を増やすため、認知症サポーター養成講座や認知症を含む出前講座、啓発活動を各学区1回/年以上実施する。</p>	<p>認知症サポーター養成講座は2学区で実施したが、新型コロナ感染拡大の影響で各学区での積極的な啓発活動はできなかった。</p>	<p>認知症（若年性認知症を含む）を理解する住民を増やすため、認知症サポーター養成講座や認知症を含む出前講座、啓発活動を各学区1回/年以上実施する。</p>
	<p>認知症の相談先を周知するため、民児協、学区社協等に出向き、「あんしんだより」等を各学区1回/年以上配布する。</p>	<p>各学区において、民児協、自治連合会等の会合に出向き「あんしんだより」を配布した。</p>	<p>認知症の相談先を周知するため、民児協、学区社協等に出向き、「あんしんだより」等を各学区1回/年以上配布する。</p>
地域づくり活動	<p>地域組織と連携ができるよう民児協、学区社協等に出向き、あんしん長寿相談所の周知を行う。 （活動指標：各学区1回/年）</p>	<p>各学区において、民児協、自治連合会、学区社協の会合に出席した。また、住民がよく立ち寄る地元の商店などにも挨拶に出向き、高齢者対応について連携をすることができた。</p>	<p>地区組織や地元の商店などと連携を強化することができるよう、挨拶や会議等の場で、あんしん長寿相談所の周知を行う。</p>
	<p>東部ブロック社会福祉協議会連絡会に出席し、地域課題を共有する。 （活動指標：1回/年以上）</p>	<p>東部ブロック社会福祉協議会連絡会に参加した。情報提供や課題の共有を行った。</p>	<p>東部ブロック社会福祉協議会連絡会に出席し、地域課題を共有する。</p>
	<p>絆づくり経営推進委員会（瀬田商工会）に出席し、移動販売やお助けサービスなどの情報を共有する。 （活動指標：1回/年以上）</p>	<p>絆づくり経営推進委員会（瀬田商工会）に参加し、高齢者の現状やニーズを伝えた。</p>	<p>絆づくり経営推進委員会（瀬田商工会）に出席し、移動販売やお助けサービスなどの情報を共有する。</p>
介護予防活動	<p>介護予防のため「フレイル対策」を含む内容の出前講座や啓発活動を、20回/年以上実施する。</p>	<p>介護予防のため「フレイル対策」を含む内容の出前講座や啓発活動を20回以上/年実施しました。フレイル予防の内容を掲載したあんしんだよりは3800枚を2回配布した。</p>	<p>介護予防のため「フレイル対策」を含む内容の出前講座や啓発活動を、20回/年以上実施する。</p>

	<p>フレイル対策の講座は、低栄養、口腔機能低下、運動機能低下、閉じこもり予防（認知症・うつ）など多職種と連携し実施する。</p>	<p>いきいき講座を利用し専門職と同行で講座を実施した。</p>	<p>フレイル対策の講座は、低栄養、口腔機能低下、運動機能低下、閉じこもり予防（認知症・うつ）など多職種と連携し実施する。</p>
--	---	----------------------------------	---